

2023 年 3 月 1 日

2022 年度聖路加国際大学大学院

看護学研究科修士論文

看護師が院内発症脳卒中に早期対応するための
学習教材の作成と試用

Creation and Trial Use of Learning Materials for Nurses
for Early Response to In-Hospital Stroke

21MN016

酒井 宏美

要旨

【目的】

本研究は、看護師が IHS に早期対応するための IHS 学習教材(案)を作成し、精練・試用することで IHS 学習教材を完成することを目的とした。

【方法】

研究デザインは質的・量的研究とし、3 段階の過程を踏み実施した。[第 1 段階] インストラクショナルデザインと計画的行動理論に基づき、看護師対象の IHS 学習教材(案)を作成した。[第 2 段階] 脳卒中専門医と、IHS に精通もしくは教育に携わる看護師計 10 名に対し、教材(案)視聴後の質問紙調査を行った。教材(案)に対する修正意見を抽出するため、回答点数の割合と自由記述の件数を算出した。また修正前後の回答点数の変化をウィルコクソン符号付順位和検定、記述の変化は件数と内容の比較を行った。[第 3 段階] 第 2 段階とは異なる看護師 10 名を対象に教材試用を行った。事前事後テストの合計得点はウィルコクソン符号付順位和検定、各設問の正答率はマクネマー検定を行った。質問紙調査は、対象者背景(所属病棟、教育受講歴)も踏まえ、回答点数の割合と自由記述の件数を算出した。

【倫理的配慮】

ヘルシンキ宣言、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づき、研究対象者への配慮と、研究に関する倫理的配慮を行った。聖路加国際大学研究倫理審査委員会において承認を得た(承認番号: 22-A016)。

【結果】

[第 1 段階] IHS 早期対応行動に繋がるための学習教材(案)と、それに基づく e-ラーニングを作成した。[第 2 段階] 調査結果をもとに教材(案) と e-ラーニングを精練した結果、回答点数は中央値 3 点以上となり、2 項目で有意に改善し、肯定的な記述が得られた。一方、早期対応行動に繋げるためには動機づけや教材以外の方略も必要という意見があった。[第 3 段階] 教材試用の結果、事前事後テストの合計得点は有意に上昇し、教育受講歴の有無にかかわらず知識が向上した。対象者全員に IHS 早期対応行動をしようとする意思(行動意図)を認めたが、病棟系で教育受講歴が無い者は早期対応への自信が低く、環境要因への懸念があった。また教材に対する受講者の反応として満足度、受講価値、動機づけの全てにおいて中央値 4 点と高い回答点数であった。

【考察および結論】

以上の結果から、本教材は IHS 早期対応行動に繋がる e-ラーニング教材として完成した。完成教材を活用し、IHS の治療率向上と患者予後改善に繋げるためには、普及を目指して操作の複雑性などを改善することが必要である。また、1)IHS 発見と報告に対するハードルを下げ、不安を減らし自信を高めること、2)IHS 発見時の報告がしやすい環境作りをすることで、早期対応行動の促進が示唆された。今後は本教材の普及、ならびに本教材を用いた効果検証が課題である。